

15 セット釣り2 寒い時期のセット釣り

水温が下がる季節はへら鮒の活性も低下し、エサを吸い込む力も弱まるので寄せることはもちろんですが、なによりも食わせることに苦労します。

このような季節はアタリが出るまでに時間がかかるため、エサ持ちがよくて吸い込みのよいくわせエサを使ったセット釣りが有効になります。

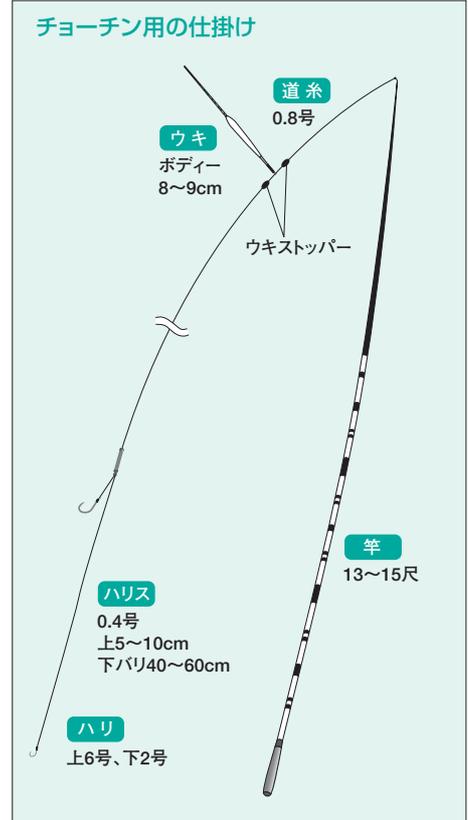
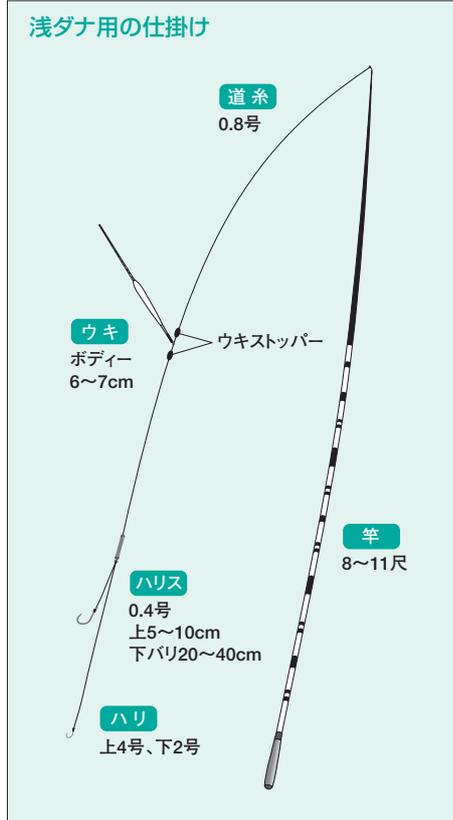


「感嘆」や「力玉」をくわせエサに使ったセット釣り

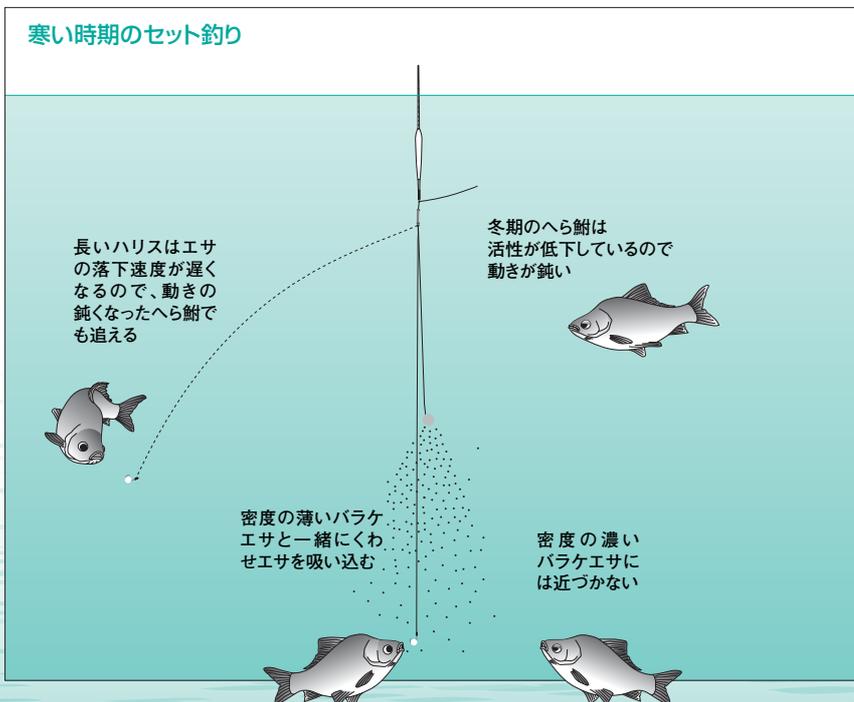
寒い季節は魚の活性が低いいため、寄せるまでに時間がかかり、釣り始めてすぐにウキが動くことはまれです。このような場合、エサ持ちがよくて軽く吸い込みのよい「感嘆」や「力玉」をくわせエサを使ったセット釣りが効果的です。なお、使用する竿や釣るタナを決める場合は、釣り場の状況に合わせて選択してください。

●寒い時期のセット釣りでは、夏場の食い渋りと同じく溶けたバラケエサの煙幕の中にくわせエサを入れて一緒に吸い込ませますが、冬場のへら鮒は活性が低いので動きが鈍く、食欲も低下しているため積極的に密度の濃いエサは食べようとしません。このようなときは下ハリスを長くするのが効果的です。

長いハリスは落下速度も遅くなって動きの鈍くなったへら鮒でも追うことができ、へら鮒が寄りやすい密度の薄いバラケエサの中にくわせエサを入れることができます。



●エサの作り方ですが、バラケエサの作り方はP12~13、P29を、「感嘆」の作り方はP12~13を参考にしてください。



ONE POINT LESSON



寒い時期のセット釣り バラケエサのブレンド例

チョーチン用

- 「GTS」400cc+「特S」400cc+「バラケマツハ」200cc+水200cc
- 「へらスイミー」200cc+水200cc+「バラケマツハ」400cc+「段差バラケ」400cc

※スイミーの粒と麩の吸水性に違いがあるので、あらかじめ「へらスイミー」を水で溶いてから麩エサを加えると均一に混ざりやすくなります

浅いタナ用

- 「新B」400cc+「軽麩」400cc+水200cc
- 「パウダーベイトヘラ」600cc+「スーパーD」400cc+水200cc



使いたいときにすぐに
使えるくわせエサ「カ玉」



●カ玉

わらびウドンタイプの粒状くわせエサです。取り出してハリに付けるだけという手軽さが最大の特徴で、手にべとつかないのでハリ付けが簡単です



①粒状なのですぐに使えます



②べとつかずハリ付けがしやすい



③ハリはしっかり中央に刺し、ハリ先を出すとへら鮎の掛かりがよくなります



④バラケエサは10円玉より少し小さめくらいを目安にして丸め、ハリを押し込みハリのチモトをギュッと加圧します。エサの打ち始めは角張らせて魚を寄せてください

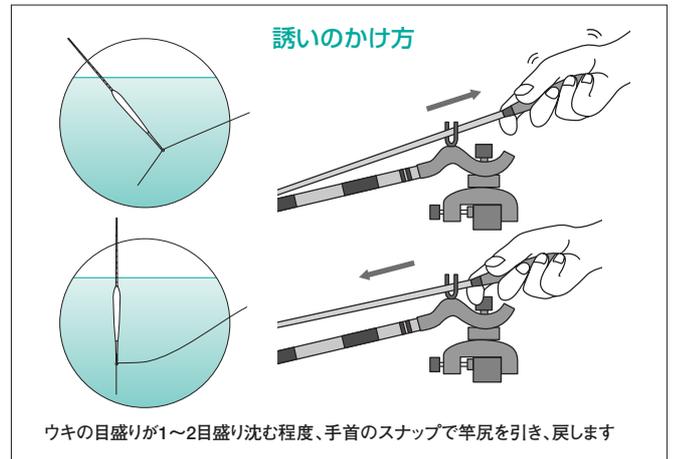


バラけたエサの煙幕の中にくわせエサが入ります



誘いをかけてみましょう

釣り始めて最初のうちは魚を寄せることに専念します。バラケエサのハリ付けは角型でバラけやすくさせ、初めはトップの先端が沈んでしまってもかまいませんから、エサ打ちをくり返します。次にへら鮎が寄ってくるとウキがなじむ途中でふわふわとサワリが出ようになります。エサの重さでトップが沈みきったら竿を手前に軽く引いて、ウキの目盛りを1〜2目盛り沈めて竿を戻す「誘い」をかけます。これを10秒間に2〜3回行ない、アタリが出なければ仕掛けを上げてエサを打ち返します。誘いは活性の低いへら鮎の興味を引かせることが目的です。理想的なアタリは誘いをかけて一拍あとにチクッとウキが沈むアタリです。



冬のセット釣りの基本的なアタリと誘い

